

## 子供達による組踊の上演

那覇市世界遺産教育普及事業の一環として、壺屋小学校六年生による組踊「執心鐘入」が、去る二月二十二日と二十七日の二回にわたって上演され、多くの市民に感動を与えた。

子供達は、六人ずつの二組に分かれ、去年の一〇月から週一〜二回のペースで、壺屋小学校で稽古をしてきた。当初は、慣れない方言のセリフに戸惑っていた様子だったが、稽古を重ねるうちに次第にスムーズにセリフを言えるよう



壺屋小学校での稽古



になった。

ほとんどの子は踊りを習ったことがなく、組踊の動作に慣れるため、学校でも自主的に「かぎやで風」の稽古に取り組んだ。

本番が近づいてくると稽古の量を増やした。また、壺屋小学校の教室だけではなく、伝統組踊保存会の稽古場で、小道具を使って稽古をするようになった。

指導にあたった比嘉良雄先生（国指定重要無形文化財組踊保持者）は「子供達であっても質の高い舞台を目指したい」と常に考え

ていたという。

二十二日のパレット市民劇場公演当日。子供達はやはり緊張していた。最後のリハーサルが終わると緊張のあまりお腹が痛いと言われ、横になる子も出たが、本番では緊張した中でも堂々と舞台をつとめあげた。

また、二十七日の久茂地公民館における公演も、これまでの稽古の成果を十分に発揮した素晴らしい舞台であった。



## 建設工事に着手

かねてから計画が進められていた「繁多川・真地・識名地区公民館・図書館（仮称）」の建設工事が、去る一月に着工されました。完成すれば、市内で七番目の市立公民館・図書館となります。

建設場所は、那覇市繁多川四丁目の識名宮に隣接する敷地内で、一階に図書館、二階と三階に公民館が設置されます。

計画の段階から地域の方々とのワークショップや検討委員会を開催し、その中で要望のあった広場の確保、バリアフリー、屋上緑化などの要素を取り入れた設計となつていきます。また、自然換気や自然光を計画的に取り入れることで省エネ効果を図るとともに、雨水利用や太陽光を利用した外灯の設置など、自然エネルギーを活用する工夫もされています。

平成十六年一月から建設工事に入っており、平成十七年一月に竣工。備品購入・整備などの準備期間を経て、平成十七年四月の開館を予定しています。